９．富田の文化

１）茶の湯

古来から豪農巨商が多く、その高尚な趣味や優美な嗜好が書画、文芸、

詩歌俳諧となり、特に茶の湯が盛んに行われた。

三輪神社の 5 月春祭りには、神社境内で、花の野点が行われます。

２）富田焼

慶瑞寺を開基した道昭和尚か行基が当地で始めたとも言われているが、いつの頃からか廃絶してしいた。

大正 14 年天坊幸彦氏が復興した

本照寺で春ジャンボ茶会が富田焼の茶碗で行われます。

３）猿楽屋敷

江戸時代の古地図に、猿楽屋敷が在ります。この地は余地で税金免除の土地です。

小春太夫の名も残っています。

当時は富田の裕福な町人が多く、茶道・花道・謡曲・和歌・絵画・漢詩・書道など盛んで、その伝統も続いています。

４）お〆縄の奉納と巡行

江戸時代中期の 270 年前から引き継がれてきた伝統行事、お正月の三輪神社の鳥居を飾る注連縄（しめなわ）作りです。

材料の藁は柳川小学校の近くの学童園で収穫したとのことです。

藁打ちは木槌で出来上がりを手で確認しながら打つとの事です。

注連縄作りは、力仕事で若手が藁をねじりあげながら声を出しながら編んでいきます。

両端にワッパを作り、中央部をふくらしながら、鳥居の長さに合わせるために、熟練者の勘どころの指示があって全員の力を合わせて作りあげて行くとのことです。

注連縄は、富田の町の中を巡行しながら三輪神社へ、三輪神社を三回りして拝殿に奉納します。

「２７０年の伝統"注連縄作りと巡行奉納"」で検索してみて下さい。